

星崎一丁目の喚続神社を有名にしているのは、社宝で、“星石”といわ
 れている隕石です。

石は長さ十三・八センチ、幅七・四センチ、高さ八・三センチのおむ
 すび形です。色は全体が黒っぽく、下部には、直径三センチほどの欠け
 た部分があり、黄色くなっています。重さは一キロ四グラムと予想外に重
 いです。

これが落下したのは寛永九年（一六三二年）旧暦八月十四日の真夜中、
 場所は神社から西へ五百メートルほど離れた塩田地帯でした。南野村の
 塩屋の主人、村瀬六兵衛が使用人と一緒に塩を焼いていると、急に西か
 ら雲が出てきました。

突然、稲光がしたかと思うと電光の「とく目の前に落下したものがあ
 り、思わず地に伏せました。しばらくしてあたりを見ると、一つの石が
 ありました。石の部分に欠けたあとのあるのは、落ちてきたとき鉦を打ち
 つけたあとだそうです。

村瀬家では代々大切に保存していましたが、文政十二年（一八二九年）
 に喚続神社へ寄進し、今では明治十四年に作られた箱に納められていま
 す。

『広報なごや南区版連載 史跡をたずねて 星崎学区』

『南区郷土文化写真集』 南区郷土文化会／編 南区郷土文化会 1968

『南区の歴史探訪』池田睦介／文 桜井克郎／絵 ブックショップマイタウン 2000